

Business Report

# ONO'S VIEW

---

## 第69期のご報告

2016年4月1日～2017年3月31日



創業300周年を、さらなる発展の起点に。

小野薬品工業株式会社  
証券コード 4528

  
**300<sup>th</sup>**  
since 1717

## Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

### 病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、1717年に大阪の道修町で薬種商「伏見屋市兵衛商店」を創業し、本年で300周年を迎えました。また、1947年の株式会社設立から70年という節目の年を迎えることができました。これもひとえに、株主の皆さまをはじめとする多くの方々のご支援によるものと考え、深く感謝申し上げます。

第69期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)につきましては、長期収載品は後発品使用促進策の影響を受けたものの、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」が非小細胞肺癌を中心に使用が大きく拡大したことに加え、欧米での売上拡大に伴うロイヤルティ収入も増加しました。その結果、売上収益は前期より大きく伸長しました。

利益面につきましても、売上増に伴い売上原価が増加し、研究開発費ならびに販売費及び一般管理費も増加しましたが、売上が大幅に増加したことに加え、抗PD-1抗体特許侵害訴訟和解による一時金収入を計上しましたことから、大幅な増益となりました。

新薬創製の成功確率が低下する中で、当社は新薬開発型製薬企業として、「製品価値の最大化」、「R&Dの変革」、「海外への挑戦」、「企業基盤の強化」に取り組んでいきます。

## 課題と取り組み

製品価値 最大化	持続的な成長を実現するため、オブジーボをはじめとする製品の価値最大化を目指します。積極的な研究開発活動、全社横断的な部門間連携と人材育成機能の強化を通じて、早期の上市・効能追加取得、上市から最短でのピークセールス達成を目指します。また、製品ライフサイクルのステージごとの環境変化を機敏に捉え、常に競争優位性を担保しうる戦略立案を実現し、各製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組みます。
R&Dの変革	画期的新薬を継続的に創出するために研究開発力を強化します。化合物オリエントからの創薬だけでなく、がんなどの重点研究領域を定めて経営資源を集中するとともに、外部との研究・創薬提携も拡充することで、ファーストインクラスが狙える独自性の高いパイプラインの充実を図ります。また、医療ニーズの高い分野での革新的な化合物の導入や新技術の獲得にも積極的に取り組みます。
海外への挑戦	自社で創製した新薬を世界中に提供できるよう、特に抗がん剤などのスペシャリティー製品について、海外での自社販売を目指して取り組みます。すでに、韓国・台湾では、現地法人を設立して自社製品の販売を開始しており、今後は欧米での販売も視野に入れて、開発体制などの整備・強化にも努めます。
企業基盤の強化	さまざまな環境の変化に対応し、厳しい企業間競争に打ち勝つため、人材育成や多様性の向上に努めるなど、企業基盤の強化に引き続き取り組んでいきます。さらに、企業の社会的責任(CSR)活動では、すべてのステークホルダーに対して社会的責任を果たすべく、活動を推進していきます。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、革新的な新薬を一日も早くお届けするために、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 相良 暁

病気と苦痛に対する人間の闘いのために。  
独創的な新薬の開発は、挑戦の歴史でもありました。

江戸時代中期の1717年(享保2年)に薬種商として創業以来、業業一筋に邁進してきました。1934年より製薬研究を開始し、1947年に医薬品の製造と販売という二つの経営機能を持つ製薬会社として、小野薬品工業株式会社を設立しました。1950年に大

衆薬市場に本格参入しましたが、1961年の国民皆保険制度の導入を機に、大衆薬から医療用医薬品への転換を図り、1968年のプロスタグランジン(PG)の全化学合成に成功以降、多くの世界初のPG製剤を上市しました。

▶1717



初代伏見屋市兵衛が  
大阪道修町に薬種商を創業

▶1947



小野薬品工業株式会社設立

▶1974

**世界初**  
プロスタグランジン  
製剤

陣痛誘発・促進、  
分娩促進剤  
「プロスタルモン注射液」



▶1934

小野市兵衛商店に  
改組・改称  
製薬の研究を開始

▶1950

風邪薬などの  
大衆薬の販売を開始

▶1968

**世界初**  
企業として初めて  
プロスタグランジン  
の全化学合成に成功

▶1979

慢性動脈閉塞症治療剤  
「注射用プロスタンディン」



2017

2011

アルツハイマー型  
認知症治療剤  
「リバスタッチパッチ」



2007

過活動膀胱治療剤  
「ステープラ錠」



1995

世界初

ロイコトリエン  
受容体拮抗剤  
気管支喘息・  
アレルギー性鼻炎治療剤  
「オノンカプセル」



1985

慢性膵炎治療剤  
「フオイバン錠」



2014

世界初

抗PD-1抗体  
抗悪性腫瘍剤  
「オプジーボ点滴静注」



2009

骨粗鬆症治療剤  
「リカルボン錠」



2000

小児科領域初

ロイコトリエン受容体拮抗剤  
気管支喘息・アレルギー性  
鼻炎治療剤  
「オノンドライシロップ」



1988

末梢循環障害治療剤  
「オパルモン錠」



2型糖尿病治療剤  
「グラクティブ錠」

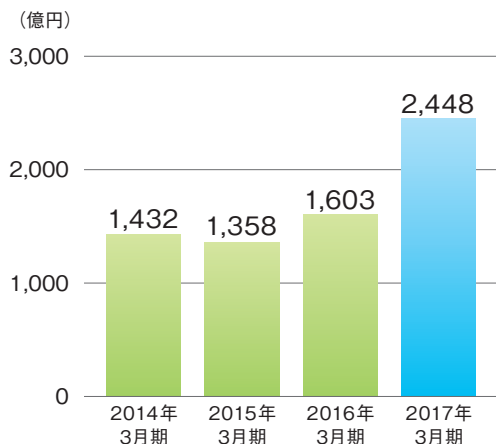


プロスタグランジン関連製品の  
発売以来、右肩上がりに成長。  
自社創薬の空白期間は導入品で  
乗り越え、「オプジーボ」の発売へ。

2002年以降、自社創製化合物の開発の中止が相次ぐ中、  
ライセンス活動を強化し、国内外の企業から化合物を導入す  
ることで新薬を上市してきました。この間、自社創薬にも挑戦  
を続けてきた結果、2014年7月に世界に先駆けて、抗PD-1  
抗体「オプジーボ」の国内製造販売承認を取得しました。

## 売上収益

**2,448億円** 前期比 **52.7%増**

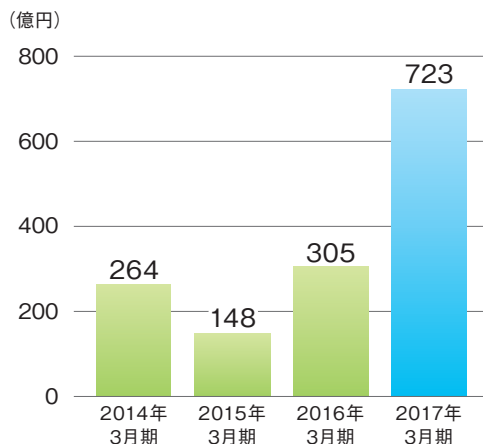


### オプジーボ使用拡大による売上増とロイヤルティ収入の増加で、増収

抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」の非小細胞肺癌への効能追加に伴い売上が大幅に増加し、海外での売上増に伴うロイヤルティ収入も増加しました。また、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」も大きく伸長するなど主要新製品が堅調に推移した結果、当期の売上収益は前期比845億円(52.7%)増の2,448億円となりました。

## 営業利益

**723億円** 前期比 **136.9%増**

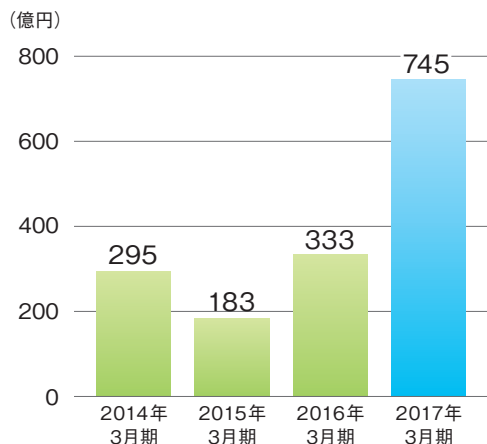


### 増収に加え、抗PD-1抗体特許侵害訴訟和解一時金の計上により大幅増益

売上収益の増加に伴い売上原価が増加、オプジーボ関連の研究開発費ならびに販売費及び一般管理費も増加したものの、売上収益の大幅増加に加え、抗PD-1抗体特許侵害訴訟の和解一時金を計上したこともあり、当期の営業利益は前期比418億円(136.9%)増の723億円となりました。

## 税引前当期利益

**745億円** 前期比 **124.0%増**

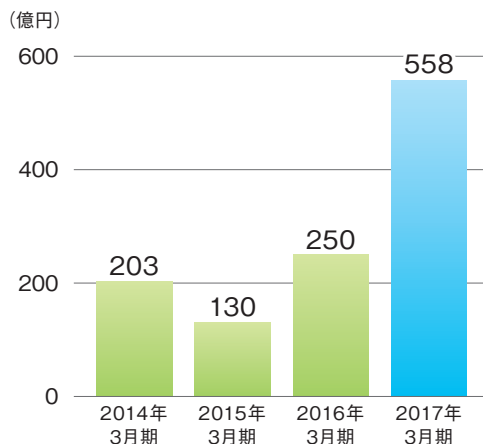


### 営業利益の増加に伴い、大幅増益

営業利益が大幅に増加。金融収支は前期比横ばいの28億円となったことから、税引前当期利益は前期比413億円(124.0%)増の745億円となりました。

## 親会社の所有者に帰属する当期利益

**558億円** 前期比 **123.4%増**



### 税引前当期利益の増加に伴い 当期利益も増益

税引前当期利益の増加により、親会社所有者帰属分の当期利益は前期比308億円(123.4%)増の558億円となりました。

# 連結業績ハイライト

## 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2016年3月31日	当期末 2017年3月31日
流動資産	223,573	271,033
非流動資産	316,877	346,428
資産合計	540,450	617,461
負債合計	64,195	93,250
資本合計	476,255	524,211
負債及び資本合計	540,450	617,461

## 損益の状況

(単位:百万円)

	前期 自2015年4月1日 至2016年3月31日	当期 自2016年4月1日 至2017年3月31日
売上収益	160,284	244,797
売上総利益	118,760	179,273
販売費及び一般管理費	△ 43,979	△ 62,049
研究開発費	△ 43,369	△ 57,506
営業利益	30,507	72,284
税引前当期利益	33,272	74,540
当期利益	25,192	56,036
親会社の所有者に帰属する当期利益	24,979	55,793

## 連結持分変動計算書(要旨)

(単位:百万円)

	資本金	資本 剰余金	自己 株式	その他の 資本の 構成要素	利益 剰余金	親会社の 所有者に 帰属する持分	非支配 持分	資本 合計
2016年4月1日残高	17,358	17,103	△59,358	43,307	452,983	471,393	4,862	476,255
当期包括利益合計	-	-	-	12,048	55,793	67,841	242	68,083
所有者との取引額等合計	-	41	△23	△3,604	△16,539	△20,125	△3	△20,128
2017年3月31日残高	17,358	17,144	△59,382	51,752	492,237	519,110	5,101	524,211

▶より詳しい業績の情報は、当社のIRサイトをご覧ください。 [http://www.ono.co.jp/jpnw/ir/ir\\_library.html](http://www.ono.co.jp/jpnw/ir/ir_library.html)

小野薬品 IR

検索



## キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	前期 自2015年4月1日 至2016年3月31日	当期 自2016年4月1日 至2017年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,842	74,450
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,037	△ 17,989
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 19,465	△ 20,552
現金及び現金同等物の増減額	6,414	35,909
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	△ 152	△ 71
現金及び現金同等物の期末残高	110,485	146,323

## 主要経営指標

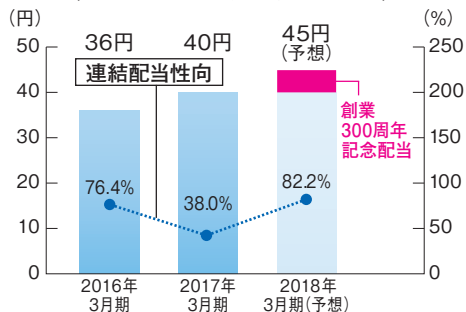
	前期末 2016年3月31日	当期末 2017年3月31日
親会社所有者帰属持分比率 (%)	87.2	84.1
1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)	889.38	979.42

	前期 自2015年4月1日 至2016年3月31日	当期 自2016年4月1日 至2017年3月31日
基本的1株当たり当期利益 (円)	47.13	105.27

## 利益還元方針

〈年間配当実績と次期予想〉



株主の皆さまへの当期の期末配当金につきましては、1株につき2円増配の20円とさせていただきます。これにより、年間にお支払いする配当金は、中間配当金20円と合わせて1株につき40円となります。なお、次期の配当金につきましては、創業300周年記念配当として1株につき5円を中間期に予定しており、これを合わせた年間配当は1株につき45円(中間25円、期末20円)を予定しています。

注：当社は、2016年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。「1株当たり親会社所有者帰属持分」、「基本的1株当たり当期利益」および「増配額」につきましては、前期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。また、2016年3月期の年間配当金は180円でしたが、当該期首に株式分割が行われたと仮定して年間配当金を36円としています。

## 主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	2016年度 売上高(実績) (億円)	対前期 増減率	2017年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	1,039	+ 391.3%	740	△ 28.8%
グラクティブ錠	294	△ 6.5%	295	+ 0.4%
オレンシア皮下注	116	+ 44.5%	145	+ 25.2%
オバルモン錠	170	△ 25.0%	140	△ 17.8%
リカルボン錠	113	△ 0.0%	110	△ 2.6%
フォーシーガ錠	78	+ 82.6%	100	+ 28.1%
リバスタッチパッチ	89	+ 13.1%	100	+ 12.9%
イメンド／プロイメンド	99	+ 4.3%	100	+ 1.2%
カイトロリス点滴静注用	20	(2016年8月発売)	60	+ 206.1%
オノアクト点滴静注用	57	+ 0.3%	60	+ 4.8%
オノンカプセル	68	△ 24.2%	55	△ 19.0%
ステープラ錠	48	△ 7.6%	45	△ 5.7%
パーサビブ静注透析用	2	(2017年2月発売)	30	+ 1439.8%
オノンドライシロップ	41	△ 26.7%	30	△ 26.9%
フオイバン錠	38	△ 25.7%	30	△ 21.7%
キネダック錠	29	△ 29.5%	25	△ 13.2%

## 二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ® 静注透析用」新発売

本年2月に、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ® 静注透析用」を新発売しました。二次性副甲状腺機能亢進症は慢性腎不全の合併症のひとつで、副甲状腺から副甲状腺ホルモンが過剰に分泌されることにより、骨から溶け出したリンおよびカルシウムが血中へ流出し、骨痛や関節痛などの症状が起こるととも



に、全身の血管に蓄積することで動脈硬化などの心血管系障害の発症リスクが高まり、生命予後に影響を及ぼします。本剤は、副甲状腺にあるカルシウム受容体に作用して副甲状腺ホルモンの過剰な分泌を抑制し、血中のリン値およびカルシウム値を低下させる薬剤で、注射剤であることから透析ルートからの投与が可能になり、透析患者さんのより確実な服薬管理が期待できます。

## 売上収益

**2,360億円** 前期比 **3.6%減**

多発性骨髄腫治療剤「カイクロリス点滴静注」、二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」などの主要新製品の売上拡大を見込んでいます。また、抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」のロイヤルティ収入の増加を見込んでいるものの、2017年2月に薬価改定のあったオブジーボの売上減少から、次期の売上収益は前期比88億円(3.6%)減の2,360億円を予想しています。

## 営業利益

**365億円** 前期比 **49.5%減**

ロイヤルティ収入増により、売上原価率は低下する見込みです。費用面では、オブジーボ関連の研究開発費が増加、またパーサビブなどの新製品やオブジーボ関連の活動経費増などにより、販売費及び一般管理費も増加する見込みです。また、今期に計上した訴訟和解一時金が次期には発生しないことから、次期の営業利益は前期比358億円(49.5%)減の365億円を予想しています。

## 税引前当期利益

**390億円** 前期比 **47.7%減**

金融収支は前期比3億円減少の25億円を見込んでおり、次期の税引前当期利益は前期比355億円(47.7%)減の390億円を予想しています。

## 親会社の所有者に帰属する当期利益

**290億円** 前期比 **48.0%減**

税引前当期利益が355億円減少することにより、次期の親会社の所有者に帰属する当期利益は前期比268億円(48.0%)減の290億円を予想しています。

# 研究開発活動・開発品の主な進捗状況

## 研究開発活動

わたしたちは、「真に患者さんのためになる医薬品を開発して社会に貢献する」、これを研究開発理念として、これまで克服されていない病気や、いまだ患者さんの治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。なかでも、がん治療およびその支持療法の領域は医療現場のニーズが高いことから、当該領域を重要な戦略分野と位置づけ、患者さんの包括的薬物治療への貢献を目指します。

## 開発品の主な進捗状況

(2017年5月8日現在)

国内	製品名(開発コード)／一般名	予定効能	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	胃がん	■	■	■	■
	カイプロリス点滴静注用 (ONO-7057)	多発性骨髄腫(用法・用量追加)	■	■	■	■
	オレンシア点滴静注用 (ONO-4164)	若年性特発性関節炎	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	食道がん	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	胃食道接合部がん及び食道がん	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	小細胞肺癌	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	肝細胞がん	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	膠芽腫	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	尿路上皮がん	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	悪性胸膜中皮腫	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	卵巣がん	■	■	■	■
	カイプロリス点滴静注用 (ONO-7057)	多発性骨髄腫(用法・用量変更)	■	■	■	■
	ONO-7643／アナモレリン	がん悪液質	■	■	■	■
	オレンシア点滴静注用 (ONO-4164)	ループス腎炎	■	■	■	■
	オレンシア皮下注 (ONO-4164)	未治療の関節リウマチ	■	■	■	■
	オレンシア皮下注 (ONO-4164)	一次性シェーグレン症候群	■	■	■	■
	ONO-1162／Ivabradine	慢性心不全	■	■	■	■
	オアクト点滴静注用50mg/150mg (ONO-1101)	心機能低下例における頻脈性不整脈(小児)	■	■	■	■
	オアクト点滴静注用50mg/150mg (ONO-1101)	心室性不整脈	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	固形がん(子宮頸がん、子宮体がん及び軟部肉腫)	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	中枢神経系原発リンパ腫／精巣原発リンパ腫	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	ウィルス陽性・陰性固形がん	■	■	■	■
	ONO-5371／メチロシン	褐色細胞腫	■	■	■	■
	ONO-4686	固形がん	■	■	■	■
	ONO-2370／Opicapone	パーキンソン病	■	■	■	■
	ONO-8577	過活動膀胱	■	■	■	■
	オブジーボ点滴静注 (ONO-4538)	胆道がん	■	■	■	■
	ONO-4481／Urelumab	固形がん	■	■	■	■

国内	製品名(開発コード)／一般名	予定効能(地域)	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
	ONO-4482	固形がん	■			
	ONO-4687／Cabiralizumab	固形及び血液がん	■			
	ONO-7701	固形及び血液がん	■			
	ONO-4483／Lirilumab	固形がん	■			
	ONO-4059／Tirabrutinib	B細胞リンパ腫	■			
	ONO-4578	固形がん	■			
	ONO-7268MX1	肝細胞がん	■			
	ONO-7268MX2	肝細胞がん	■			
	ONO-2160／CD	パーキンソン病	■			
国外						
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	非小細胞肺がん(非扁平上皮型)(台湾)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	頭頸部がん(台湾)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	尿路上皮がん(欧州)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	大腸がん(米国)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	頭頸部がん(韓国)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	膠芽腫(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	小細胞肺がん(欧米・韓国・台湾)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	胃がん(欧米・韓国・台湾)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	食道がん(欧米・韓国・台湾)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	尿路上皮がん(韓国・台湾)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	肝細胞がん(欧米・韓国・台湾)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	多発性骨髄腫(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	胃食道接合部がん及び食道がん(欧米・韓国・台湾)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	悪性胸膜中皮腫(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	濾胞性リンパ腫(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	中枢神経系原発リンパ腫／精巣原発リンパ腫(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	大腸がん(欧州)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	固形がん(トリプルネガティブ乳がん、胃がん、膵臓がん、小細胞肺がん、尿路上皮がん、卵巣がん)(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	ウィルス陽性・陰性固形がん(欧米・韓国・台湾)	■			
	ONO-4059／Tirabrutinib	B細胞リンパ腫(欧米)	■			
	ONO-4059／Tirabrutinib	シェーグレン症候群(米国)	■			
	ONO-4474	変形性関節症(欧州)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	血液がん(T細胞リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性白血病、他)(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	慢性骨髄性白血病(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	C型肝炎(欧米)	■			
	オブジーボ点滴静注(ONO-4538)	敗血症(米国)	■			
	ONO-7475	急性白血病(米国)	■			
	ONO-7579	固形がん(欧米)	■			
	ONO-8055	低活動膀胱(欧州)	■			

※なお、抗がん剤において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(開発ステージ)を記載しています。

## オプジーボ点滴静注について

### ■ 国内における開発進捗状況

オプジーボ点滴静注は、当期（2016年4月から2017年3月）において、腎細胞がん、ホジキンリンパ腫、頭頸部がんの3つのがん腫で効能追加を取得しました。2014年7月に世界初の抗PD-1抗体として悪性黒色腫の治療薬として製造販売承認を取得して以降、2015年12月の非小細胞肺がんでの効能追加をあわせ、現在5つのがん腫で承認を取得し、2016年12月には胃がんを対象に効能追加の承認申請を行いました。また、2017年4月には胆道がんを対象に、厚生労働省が定める「先駆け審査指定制度」の対象品目として指定を受けました。

第69期中に承認取得および承認申請を行ったもの（国内）

承認取得（効能・効果）	根治切除不能又は転移性の腎細胞がん	2016年8月
	再発又は難治性のホジキンリンパ腫	2016年12月
	再発又は遠隔転移を有する頭頸部がん	2017年3月
承認申請（予定効能）	治癒切除不能な進行・再発の胃がん	2016年12月

### ■ 抗PD-1抗体特許侵害訴訟についてMerck社と和解

当社と米国ブリストル・マイヤーズ スクイブ社（以下、BMS社）は、米国Merck社およびその関連会社（以下、メルク社）による抗PD-1抗体製品である「キイトルーダ<sup>®</sup>」（一般名：ペムブロリズマブ）の販売等が、当社とBMS社が保有する特許の侵害にあたるとして、日本、米国、欧州等において、特許侵害訴訟を提起するなど係争していましたが、2017年1月に当社およびBMS社はメルク社と和解し、ライセンス契約を締結したことで訴訟は終了しました。

本契約により、当社およびBMS社が保有する用途特許および物質特許が有効であることを確認し、メルク社の「キイトルーダ<sup>®</sup>」の販売を許諾すること、また、メルク社は当社およびBMS社に対して6億2500万ドルの頭金を支払い、2017年1月1日から2023年12月31日までは「キイトルーダ<sup>®</sup>」の全世界売上の6.5%、2024年1月1日から2026年12月31日までは2.5%をロイヤリティとして支払うことで合意に至りました。なお、頭金およびロイヤリティは当社に25%、BMS社に75%の割合で分配されます。

## CSR活動

### ■ 認知症の出張特別授業を実施

65歳以上の4人に1人が認知症もしくはその予備軍といわれており、今後さらに増えることが予想されています。このような中で当社では、認知症への理解を深め、社会での取り組みをともに考えることを目的に、中高生を対象とした出張特別授業を2014年から実施しており、昨年12月には近畿大学附属高等学校・中学校(大阪府)、今年2月には滝中学校・高等学校(愛知県)で実施しました。授業では、冒頭に認知症啓発ショートムービー「バアちゃんの世界」を視聴いただいた後、藤田保健衛生大学病院の武地一先生より「認知症になぜ国家戦略なのか」をテーマとした講義が行われました。最後の質疑応答では、生徒から多数の質問が出されるなど、認知症への関心を高めることができました。



近畿大学附属高等学校・中学校



滝中学校・高等学校

### ■ 復興支援活動「すこやかカラダ大作戦 in いわて」を開催

本年4月に、東北復興支援活動「すこやかカラダ大作戦 in いわて」のキックオフイベントを岩手県大船渡市で開催しました。すこやかカラダ大作戦は、東北3県における肥満傾向児の比率が他県よりも高く、小児肥満の改善が課題となっていることから、子どもたちにスポーツや運動の楽しさを伝えることで生活習慣の改善を促し、さらには健やかな心身づくりを応援することを目的として実施しています。2015年3月の福島県大沼郡会津美里町、2016年3月の宮城県石巻市に続き、今回は第3回目の開催であり、岩手県大船渡市と陸前高田市の小学1～3年生の子どもたちと、その保護者の方に参加いただきました。



すこやかカラダ大作戦 in いわて

「すこやかカラダ大作戦」では、キックオフイベントを皮切りに、その後も当イベントに参加いただいた方を対象に事後プログラムを実施しており、継続的にスポーツや運動の楽しさを伝えることで、運動習慣の定着を目指しています。

## 提携活動

### ■ Ligand社(ライガンド社)との提携契約締結

2016年12月に、米国ライガンド社と、当社がライガンド社の3種類の遺伝子改変動物を使用して完全ヒト型の単一特異性または二重特異性抗体(OmniAb<sup>®</sup>\*1抗体)を創製する権利を取得するライセンス契約を締結しました。

ライガンド社は製薬企業の創薬研究や医薬品開発を支援する技術を開発・取得することを中心に事業を展開するバイオ製薬企業です。

当社はライガンド社が有する遺伝子改変動物を活用していくことで、これからの抗体医薬品の創製研究が大きく飛躍できるものと期待しています。

\*1 OmniAb<sup>®</sup>・・・ヒト型の単一特異性または二重特異性抗体を作製するための、3種類の遺伝子改変動物に関する基盤技術。



ライガンド社

### ■ X-Chem社(エクスケム社)との提携契約締結

2017年3月に、米国エクスケム社と、がん領域における新規低分子制御薬の創製を目的とする創薬提携契約を締結しました。

エクスケム社は、米国マサチューセッツ州に本拠を置き、付加価値の高い医薬品の標的分子に対する低分子制御薬を創製するバイオ製薬企業です。エクスケム社は、独自のDEX<sup>™</sup>技術\*2を駆使し、当社が選択した複数のがん領域における創薬標的に対する新薬候補化合物の創製に取り組みます。

当社は、本提携によって創製される化合物を全世界で開発・商業化する権利を保有しており、今後、がん領域における革新的医薬品が創製されることを期待しています。

\*2 DEX<sup>™</sup>技術・・・エクスケム社が有する1,200億個にもおよぶデオキシリボ核酸(DNA)標識ライブラリを用いることで、既存のスクリーニング法では見出せなかった創薬標的へのヒット化合物を、高い確率で見出そうとする技術。



エクスケム社



## 提携活動

### ■ Numab社(ニューマブ社)との創薬提携契約およびオプション契約を締結

2017年3月に、スイスのニューマブ社と、がん免疫領域において多重特異性抗体を創製するための創薬提携契約およびオプション契約を締結しました。

ニューマブ社は、2011年に設立された企業で、がん免疫および免疫領域において自社の多重特異性バイオ医薬品のパイプラインを有しています。

本契約により当社は、ニューマブ社の革新的な創薬アプローチに基づいて作製された新薬候補抗体について知的財産権を取得するとともに、独占的に開発・商業化するオプション権を獲得しました。この提携から創製される多重特異性抗体が、がんに苦しむ患者さんに希望を与え得るものとなることを期待しています。



ニューマブ社

### ■ 生化学工業株式会社との共同開発及び販売提携に関する基本合意書締結

2017年5月に、生化学工業株式会社(以下、生化学工業)と、同社が開発中の変形性関節症治療剤SI-613(以下、SI-613)の国内における共同開発及び販売提携に関する基本合意書を締結しました。

SI-613は、生化学工業独自の薬剤結合技術を用い、ヒアルロン酸と非ステロイド性抗炎症薬(NSAID)を化学結合した薬剤で、徐放作用を併せ持ち、変形性関節症に見られる強い痛みや炎症を速やかかつ長期間にわたり改善することが期待されます。また、注射剤として関節腔内に直接投与することから、全身血流への移行が少なく、副作用が軽減されることも期待しています。

SI-613は国内において、現在、変形性関節症を対象とした第Ⅲ相臨床試験を実施しており、膝関節を対象とした検証的試験をはじめ、今後、他関節部位(股、足首、肘、肩)を対象とする臨床試験も実施する予定であり、各臨床試験を速やかに進めて早期の承認取得を目指します。



生化学工業株式会社 中央研究所

# 会社の概要

## ■ 会社概要 (2017年3月31日現在)

社名	小野薬品工業株式会社
英文社名	ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
創業	享保2年(1717年)
設立	昭和22年(1947年)
資本金	17,358,275,607円
事業内容	医療用医薬品を主体とする各種医薬品の研究、開発、製造、仕入および販売
従業員数	3,290名(連結) 3,062名(単体)

## ■ 主要な事業所 (2017年3月31日現在)

本社	〒541-8564 大阪府中央区久太郎町一丁目8番2号 電話 06-6263-5670 〔 登記簿上の本店所在地 大阪府中央区道修町二丁目1番5号 〕
支店	全国9支店 (その他主要都市に営業所等を設けています)
工場	城東工場(大阪府)、フジヤマ工場(静岡県)
研究所	水無瀬研究所(大阪府)、福井研究所、 筑波研究所(茨城県)
海外子会社	オノ・ファーマ・ユー・エス・イー インク(米国ニュージャージー州) オノ・ファーマ・ユー・ケー・リミテッド(英国ロンドン) 韓国小野薬品工業株式会社(韓国ソウル) 台湾小野薬品工業股份有限公司(台湾台北)

## ■ 役員 (2017年6月29日現在)

代表取締役 取締役社長	相良 暁
取締役 副社長執行役員	栗田 浩
取締役 専務執行役員	佐野 敬
取締役 常務執行役員	川瀬 和一十
取締役 常務執行役員	小野 功雄
社外取締役	加登 豊
社外取締役	栗原 潤
常勤監査役	西村 勝義
常勤監査役	藤吉 信治
社外監査役	作花 弘美
社外監査役	菱山 泰男

# 株式の状況 (2017年3月31日現在)

## ■ 株式数

- 発行可能株式総数 ..... 1,500,000,000株
- 発行済株式の総数 ..... 589,237,500株  
(自己株式59,156,840株を含む)

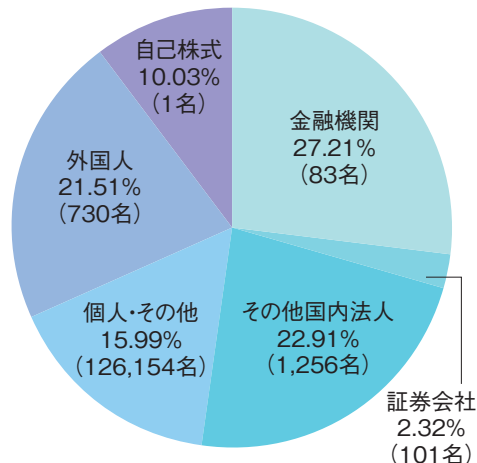
■ 株主数 ..... 128,325名

## ■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	29,137	5.49
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	26,405	4.98
明治安田生命保険相互会社	18,594	3.50
ジェービー モルガン チェース バンク 385147	18,388	3.46
公益財団法人 小野奨学会	16,428	3.09
株式会社 鶴鳴荘	16,122	3.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	8,738	1.64
株式会社三菱東京UFJ銀行	8,640	1.63
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	8,606	1.62
大同生命保険株式会社	6,549	1.23

- (注) 1. 当社は自己株式59,156千株を保有していますが、上記大株主には記載していません。  
2. 持株比率は、自己株式(59,156千株)を控除して算出しています。

## ■ 所有者別の株式分布状況

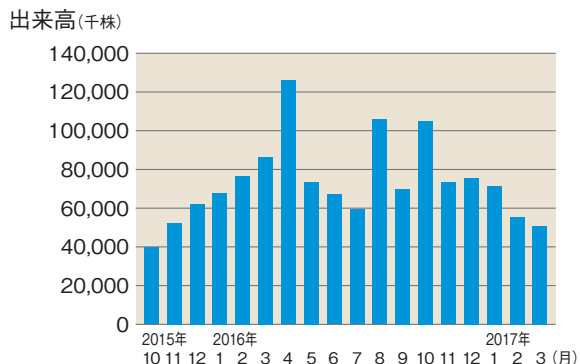
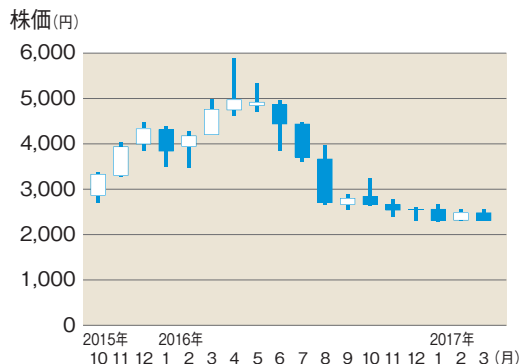


(注) 比率は、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を  
加算しても100%になりません。

## ■ その他株式に関する重要な事項

当社は、2016年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。

## ■ 株価および株式売買高の推移



- (注) 当社は、2016年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。  
「株価および株式売買高の推移」につきましては、前期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス <a href="http://www.ono.co.jp/">http://www.ono.co.jp/</a>
上場証券取引所	東京証券取引所（証券コード4528）
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
各種お問合せ先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金のお支払いについて  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページアドレス

<http://www.ono.co.jp/>